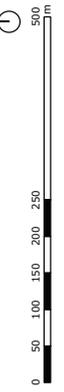


図5 課題となる植栽 まとめ

自然生態系に影響を与える樹林(ナンキンハゼ)⇒伐採
 自然要素に調和しない樹林(ナンキンハゼ・サルスベリ) ⇒伐採

眺望を阻害する植栽
 日照不足・過密な植栽

計画区域



2) 魅力向上の方向性

ゾーニングの検討過程で作成されたデータや資料を基に、魅力向上について検討価値のある範囲を抽出し、魅力向上の方向性を検討する。

●魅力向上の方向性の検討フロー

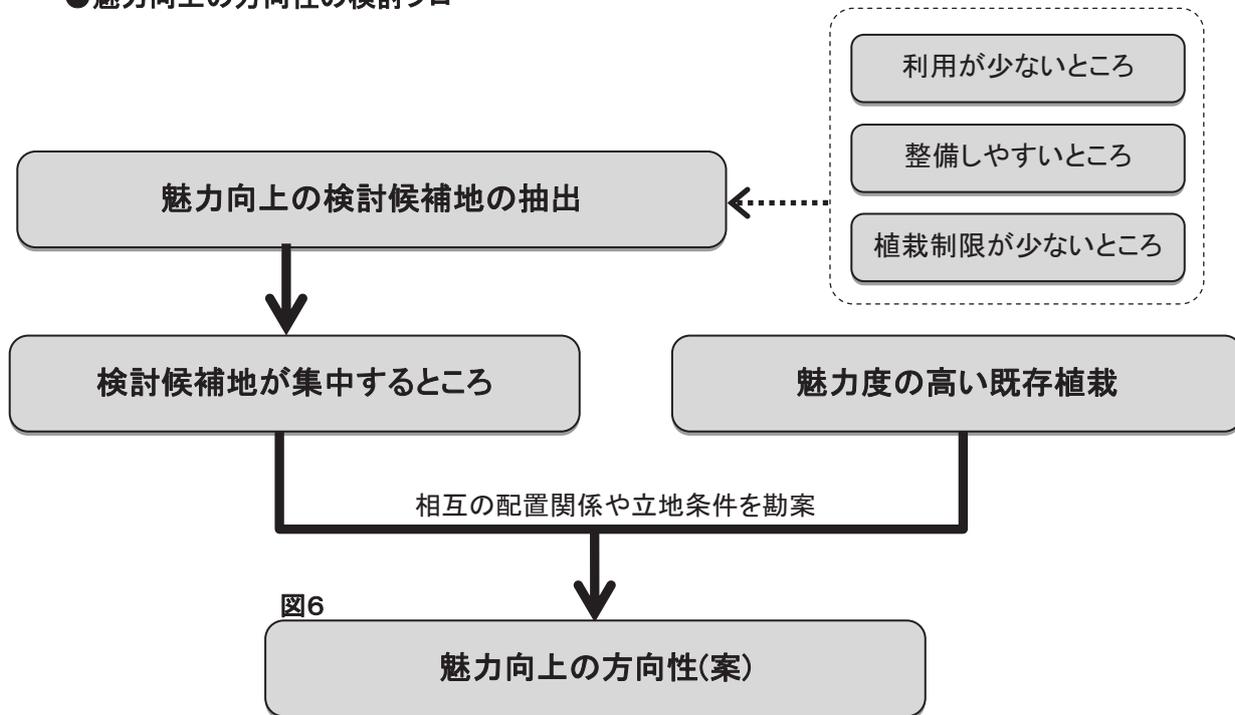


図6

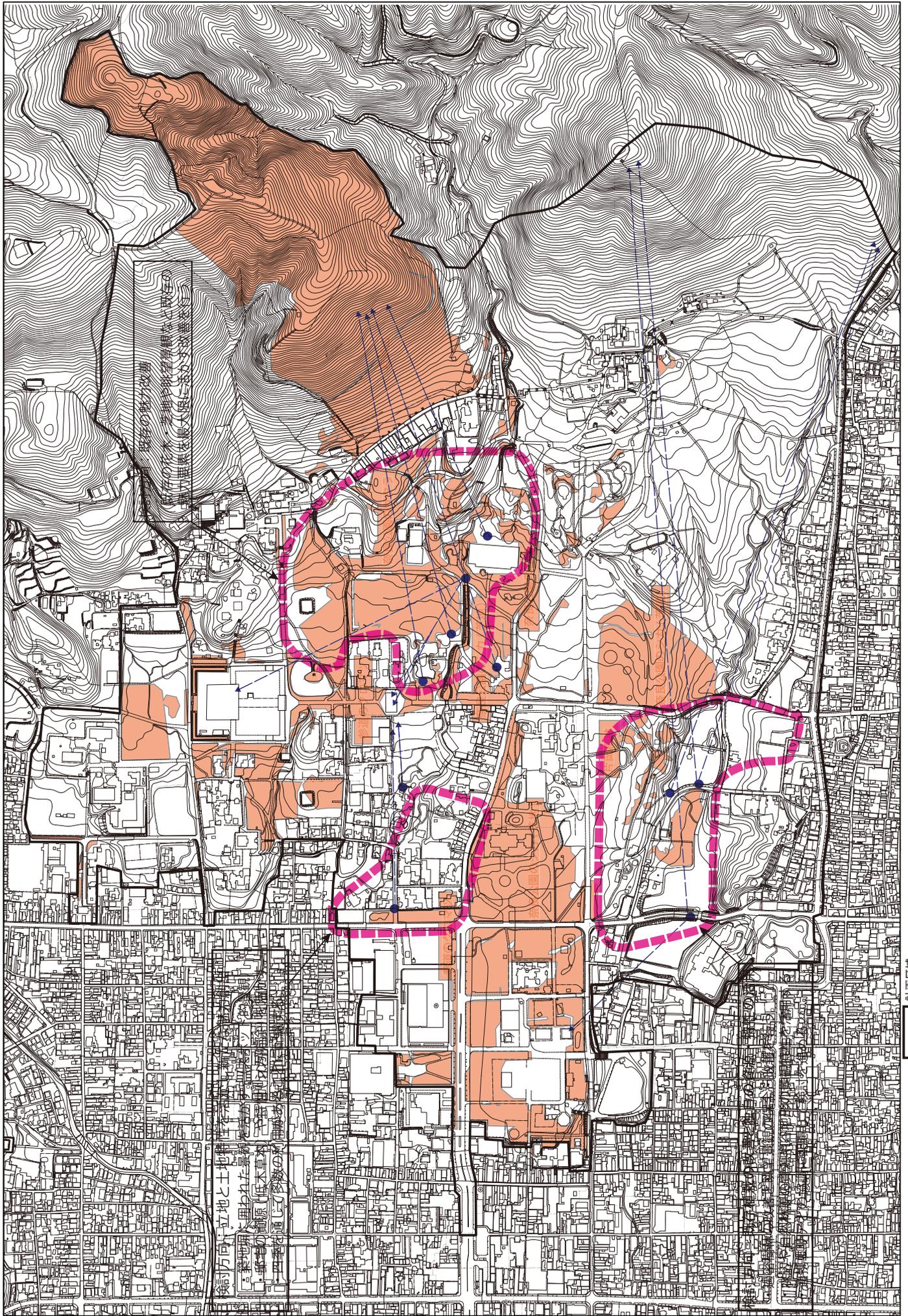


図6 魅力向上の方向性

魅力向上の検討候補地が集中するエリア
上記エリア内の重要な眺望景観



知名度の高い植栽
(魅力度の高い既存植栽)



計画区域



ゾーニングの変更点・報告書の構成変更点

1. ゾーニングの変更点

○変更の考え方

正倉院及び旧大乘院庭園、奈良ホテルは、(広義の)奈良公園の主要施設であり、観光施設としての魅力も高い。ゾーニング元案ではこれらの施設はバッファゾーンに含まれており、そのままでは一般の民有地と同等の取り扱いとなり、当該施設の位置づけとしては違和感が生じる。

そこで、奈良公園全体から見た植栽としての役割はバッファ機能としつつ、当該施設にとっての植栽役割の重要性を評価し、サブゾーンとして「正倉院植栽ゾーン」「旧大乘院庭園植栽ゾーン」を追加設定した。

2. 報告書の構成変更点

○変更の考え方

第3回委員会の資料では、「(1) ゾーニングの検討」の項に「現況植栽の問題点」を表記した図が挿入されていたため、現況の問題点改善が植栽計画であると誤解される表現となっており、長期的な将来目標を定めることを狙いとしたゾーニングの目的が曖昧となっていた。(委員指摘事項)

そこで、ゾーニング検討の作業過程で抽出された「現況植栽の問題点」や「魅力向上の方向性(案)」については、「(1) ゾーニングの検討」に続く項として「(2)植栽計画に向けての課題整理」を設けて、そこで述べる構成とした。